

TSTiAニュース

2018年 10月

秋 号

vol.50

TSTiA

Tohoku・Hokkaido Surface Treatment Industry Association

ニュース



東北・北海道表面処理工業組合

我が社、我々の信条



東北・北海道表面処理工業組合
監事 小島 浩之

T S T i Aの監事をさせて頂いております、米沢アルミ工業株式会社の小島浩之と申します。弊社が昭和53年11月1日に創業し、まもなく40周年を迎えようと致しております。紆余曲折はございましたが、現在継続出来ておりますことは、社員、顧客、仕入先、工事業者そしてT S T i Aの皆様はじめ多くの方々に支えられ、ご指導を頂いた賜物と思っております。以下、我が社、我々の信条ですが、十数年前に多くのすばらしい企業のをまとめ、弊社の信条とひそかに作成致しましたが、役員のみ配布し、社員には公開出来ておりません。自分でなかなか実行出来ないのも、..... 公表出来ていないのであります。恥を忍んで、紙面にて公表させて頂きます。

我が社、我々の信条

我々の第一の責任は

顧客のニーズに応えるにあたり、我々の行なうすべての活動は質的に高い水準のものでなければならぬ。

適正価格を維持するため、我々は常に製品原価を引き下げる努力をしなければならない。

顧客からの注文には、迅速、かつ正確に応えなければならない。

我々の取引先には、適正な利益をあげる機会を提供しなければならない。

我々の第二の責任は

社員一人一人は個人として尊重され、その尊厳と価値が認められなければならない。

社員は安心して仕事に従事できなければならない。

待遇は公正かつ適切でなければならず、働く環境は清潔で、整理整頓され、かつ安全でなければならない。

社員が家族に対する責任を十分果たすことができるよう、配慮しなければならない。

社員の提案、苦情が自由にできる環境でなければならない。

能力ある人々には、雇用、能力開発および昇進の機会が平に与えられなければならない。

我々は有能な管理者を任命しなければならない。

そして、その行動は公正、かつ道義にかなったものでなければならない。

我々の第三の責任は

我々は良き市民として、有益な社会事業および福祉に貢献し、適切な租税を負担しなければならない。

我々は社会の発展、健康の増進、教育の改善に寄与する活動に参画しなければならない。

我々が使用する施設を常に良好な状態に保ち、環境と資源の保護に努めなければならない。

我々の第四の、そして最後の責任は

事業は健全な利益を生まなければならない。

我々は新しい考えを試みなければならない。

研究開発は継続され、革新的な技術は開発され、失敗は償わなければならない。

新しい設備を購入し、新しい施設を整備し、新しい製品を市場に導入しなければならない。

逆境の時に備えて蓄積を行なわなければならない。

これらすべての原則が実行されてはじめて、全社員とその家族、顧客、そして我が社が存続できるものと確信する。

米沢アルミ工業株式会社



報 告

第 49 回 東北・北海道ブロック会議開催！

第 49 回目東北・北海道ブロック会議は 9 月 26 日(水)ホテルメトロポリタン仙台で開催されました。会員、賛助会員ら 55 名の方々が参加されました。



【 第 I 部 会 議 】

井上理事が司会を務め、開会の辞を穴戸副理事長が行い、島田理事長の挨拶に引き続き東北経産局清野総括係長、全鍍連の森脇会長が挨拶をされました。始めに北海道胆振東部地震の被害者のご冥福を祈り黙祷を捧げました。



島田理事長は「本日はお忙しい中、東北経済産業局より清野統括係長様、全鍍連より森脇会長、清水専務理事のご出席を賜りありがとうございます。今年は震災の多い年でした。大阪ではブロック塀倒壊により小学生の死者もできました。宮城県では 40 年前に大きな地震がありブロック塀の倒壊により多くの事故が多発しておりました。その見直しにより東日本大震災ではブロック塀の事故はありませんでした。その教訓が大阪では活かされておられません。残念な思いです。7 月の豪雨、そして猛暑、仙台でも 37.3 度を記録いたしました。全国的にも記録を更新したところが多かったと思います。今月も関西方面に大きな台風により大きな被害が出ました。今月 6 日には震度 7 の北海道胆振東部地震が発生しました。驚いたのは道内での停電です。電気がないと排水処理も出来ないし身動きが取れない状況になります。北海道の方々は大変な思いをされたことと思います。中島理事が出席されておりますのでその辺もお話いただけるものと思います。自然災害とは言え人が作ったもの、システム障害等人災の部分も多いと思います。自社での起こりえる災害予想の対応が必要と思います。全鍍連では様々な活動しておりますが清水専務理事よりご報告があります。業界の問題点とし



て人手不足、人材確保の難しさ、人件費の値上がり、それらがめっき価格に転嫁できない。会議では皆様方よりきたんのないご意見をお願い致します。会議の後は講演会、懇親会がありますので最後まで宜しくお願い致します。」と挨拶されました。

東北経済産業局清野総括係長は「私は製造産業課に所属しており幅広く製造関係を見させて



いただいております。今の部署には1年半所属しております。この組合の総会、賀詞交歓会、青年部会にも参加をさせていただいております。顔を覚えていただき何でも相談できる関係を築いていきたいと思っております。この会議には当局として久しぶりの参加になるかと思っておりますが皆様方の取り組み内容を勉強させていただきたい。我々も今後どのようなことができるか参考にさせていただきたい。今は人材不足、

原材料の高騰等同じような課題を聞くことが多く自動車関連が好調とされる中、中小企業の人材の確保が難しく大胆な投資、改革が出来ないといった話が多いです。そんな中、国の概算要求が発表されまして経産省としては来年度も中小企業の施策を重点項目にしております。年度末には施策も固まってくると思っております。機会があれば説明をさせていただければと思っております。ものづくり日本大賞がありまして今年度は第8回となり10月に公募されます。会社を表彰するというより会社の個人、グループを表彰する制度です。是非ご参加をお願い致します。」と挨拶されました。

全鍍連森脇会長は「仙台は清々しい秋らしい季節になったと感じました。昨年同様清水専



務理事と参加させていただきました。島田理事長は全鍍連では情報国際委員の担当副会長をしております。9月12日よりアメリカの研修旅行と一緒にいき島田理事長が団長でした。特に島田理事長のお嬢さんには大変お世話になりました。英語はペラペラでアメリカのことは何でも知っているし普通では見られないミュージカルも見せていただきました。景気は緩やかな回復と言われております。今年の春から東北北海道は上り調子になっていると聞いております。日本金融公庫の昨年と一昨年によるとめっき業の売上利益は平均19.5%から20%ということ

です。今日は賛助会員もいますがそんな利益しか上げてないのかと言われるかも知れないがその辺は抑えて聞いてください。賛助会員さんは材料上げますと言えばそのまま上がりますがめっき上げますと言っても上がりません。私が会長になって会員が1330社から1299社となり訳30社減となし、その前の年も30社減でした。考え方によりますが従業員数は増えています。20%の利益のない所は20%を目指し、それ以上の所はそれ以上を目指してください。ある方が言うには平均が25%になると一人当たりの売り上げを200万にしたら良いと言われてました。200万上げるのは大変と言うとそんな仕事は辞めたらいいと言われてました。硬質クロムをやっているところ200万を越しているところは何社かありましたが100万を超えてないところもありました。みんなが少しでも売上を上げ利益を上げるようにして行けば辞める所も減ると思っております。後継者がいないところも社員が後継者になりたいといえるようにしていきたいと思っております。めっき業が減ると日本のものづくりにも影響が出ます。めっき業は設備の大変です。友達のプレス屋はめっき業は大変だな感心してました。今日は宜しくお願い致します。」と挨拶されました。

会議は島田理事長を議長として議事に入りました。

全鍍連報告（清水専務理事）



1. 全鍍連概況 2. 事業活動報告 ①経営委員会(景況状況、女性経営者部会、先輩経営者) ②情報・国際委員会(子供見学デー、国際事業等) ③技術委員会(全国めっき技術コンクール参加状況等) ④環境委員会(暫定排水基準、土壌汚染問題等) ⑤総務委員会(青年部交流会等) を詳細に説明されました。

・地方事情報告は各地区の状況を下記の方々よりご説明をいただきました。

北海道地区（メテック(株)北海工場中島工場長）、秋田地区（秋田化学工業(株)丹野社長）、岩手地区（(株)ケディカ小原専務）、山形地区（米沢アルミ工業(株)小島社長）、宮城地区（(株)ケディカ三浦会長、福島地区（(株)旭電化宍戸社長）の各氏よりご報告をいただいた。賛助会員より三明化成(株)守屋所長、(株)板通篠原所長より業界報告がありました。



メテック(株)
中島工場長



秋田化学工業(株)
丹野社長



(株)ケディカ
小原専務



米沢アルミ工業(株)
小島社長



(株)ケディカ
三浦会長

(株)旭電化
宍戸社長

三明化成(株)
守屋所長

(株)板通
篠原所長

岡崎副理事長

閉会の辞を岡崎副理事長が行い、次回の開催を山形地区として東北・北海道ブロック会議は無事に終了いたしました。

【 第Ⅱ部 講演会 】



(株)草新舎代表取締役社長高橋寿様による『視点を変える』というテーマでご講演をいただいた。高橋寿氏は1960年9月宮城県桃生町で生まれました。1984年父親の逝去により(株)草新舎前進の高橋市郎商店に入社され、豊業界に足を踏み入れました。2008年9月に現在の(株)草新舎を設立し代表取締役社長に就任いたし

ました。文化財畳保存会理事などを務め昔ながらの畳を大きく変えるXTにより独創的な現代畳を完成させました。国宝瑞巖寺の平成大修理の畳施行も手掛けられました。海外からの引き合いもあるようです。



【 第三部 懇親会 】

司会は元井理事が務められました。

島田理事長の挨拶に続きキザイ(株)春日井社長の乾杯で祝宴は開催されました。

賑やかな中にも草間副理事長の手締めで無事に東北・北海道ブロック会議は終了となりました。



島田理事長



キザイ(株)
春日井社長



閉会の辞
草間副理事長



また、ゴルフは雨模様の天気でしたが、楽しく仙台カントリー倶楽部でプレーが出来たようです。

結果は次の通りでした。

優 勝：山口重次 氏（株山口製作所）

準優勝：小原良一 氏（株ケディカ）

3 位：高橋 至 氏（株会津技研）

4 位：宍戸隆司 氏（株旭電化）

5 位：岡崎淳一 氏（ジャスト株）

おめでとうございます。



電気めっき技能検定試験実技

山形県職業能力開発協会による実技試験をジャスト株様の会場で7月28日（土）、29日（日）に実施されました。今回は1級6名、2級21名の総勢27名が受験されました。

検定委員には松原氏（株ケディカ）、原田氏、衣袋氏（ジャスト株）、補佐員には森本氏（株ケディカ）、松坂氏（株三ツ矢）、岡崎氏、今野氏（株ジャスト）の立ち合いで行われました。準備に委員の方々のご尽力をいただきました。皆様、大変お疲れ様でした。



検定委員、補佐員の方々



理事会

<第3回理事会>

7月18日(水)午後4時よりホテルメトロポリタン仙台で実施いたしました。

島田理事長、草間副理事長、丹野専務理事、三浦修市顧問理事、井上理事、永島理事、栗原理事、元井理事の8名が本人出席しました。



島田理事長の挨拶に引き続き議事を行った。

1. 東北・北海道ブロック会議の件

9月26日(水)「ホテルメトロポリタン仙台」で実施する。

当日の担当役割をそれぞれ決める。

翌日は懇親ゴルフを行う。

2. 全国めっき技術コンクールの件

3. 優良企業視察の件

平成30年11月8日(木)～9日(金)で埼玉県の2企業を訪問する。

4. 技能検定実技試験の件

秋田県と山形県の2か所実施する。

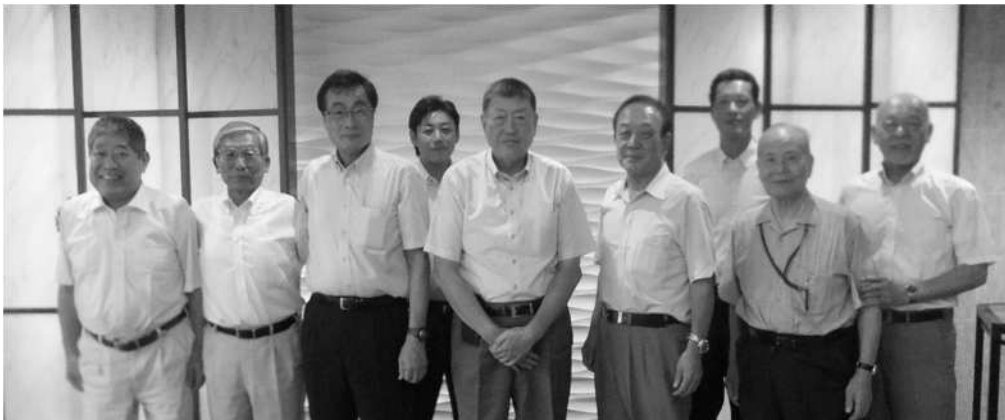
5. 環境整備優良事業所、組合功労役員推薦の件

6. 全鍍連70周年式典&全国大会の件

7. その他の件

次回役員会、新春賀詞交歓会、次期総会日程、全鍍連各委員会報告

理事会終了後、暑気払いを実施致しました。



<第4回理事会>

9月26日(水)昼よりホテルメトロポリタン仙台で実施した。

島田理事長、草間副理事長、央戸副理事長、岡崎副理事長、丹野専務理事、鈴木顧問理事、三浦修市顧問理事、高橋顧問理事、井上理事、永島理事、栗原理事、元井理事の12名が出席しました。

島田理事長の挨拶で議事は進行しました。



1. 東北・北海道ブロック会議に関する件
第1部、第2部、第3部での各役割の確認
2. 全国めっき技術コンクールに関する件
5社が申し込んだ
3. 優良企業視察研修会に関する件
埼玉県の2社を訪問（吉野電化工業㈱、日本電鍍工業㈱）
4. 環境整備優良事業所&組合功労役員推薦に関する件
共和アルミニウム工業㈱を推薦、功労役員については該当者なし
5. 全鍍連70周年&第56回全国大会に関する件
平成30年11月21日（水）ホテルニューオータニで実施する
6. 役員会&忘年会&ゴルフに関する件
12月4日（火）東洋館にて実施、ゴルフは仙台カントリー倶楽部で。
7. 新春賀詞交歓会に関する件
平成31年1月23日（水）法華クラブ仙台にて実施
午前10時から三役で挨拶廻り
昼：顧問理事三役会 午後3時理事会 午後4時30分講演会 午後5時50分交歓会
講演会：戸津東北大学准教授（演題「AI、IoTを活用したものづくり」）
8. 次期総会日程に関する件
平成31年5月15日（水）法華クラブ仙台
9. その他の件

北 青 会

<懇親ゴルフ&暑気払い>

毎年恒例となりました会員相互の親睦とコミュニケーションの強化及び東北経済産業局との連携強化を目的とした懇親ゴルフ&暑気払いを7月20日（金）実施致しました。ゴルフ「仙台空港カントリークラブ」と暑気払い「仙臺鳳山」で行いました。東北経済産業局から8名にご参加いただき、相互の人脈作りに欠かせないものとなりました。

齋藤会長、島田理事長の挨拶で始まり東北経済産業局より乾杯前に局の取組の説明をいただきました。続いて東北経済産業局清野係長の乾杯でスタートしました。

また新会員（土本慎之介氏：ユケン工業㈱、加藤正広氏：東電化工業㈱、佐藤修二氏：(有)安孫子鍍研資材店）から自己紹介と東北経済産業局の参加者より各自自己紹介をしていただきました。

今回も大いに盛り上がりを見せ、有意義な暑気払いとなりました。椎谷副会長の中締めで賑やかな中、終了致しました。





齋藤会長



島田理事長

東北経産局
清野係長

椎谷副会長



暑気払いの日中に行った懇親ゴルフは優勝：田口利一氏(株)鍍研)、準優勝：千田浩司氏(日本フィルター株)、3位：岡崎淳一氏(ジャスト株)となりました。



<工場見学会>

9月14日(金)東電化工業株式会社様の工場見学会を実施致しました。北青会メンバー13名の方々が参加を致しました。

初めに若泉社長よりご挨拶をいただき、高橋章博係長より会社のご説明をいただきました。
 沢口常務と渋谷部長の2班に分かれて工場内を見学させていただきました。

<会社概要>



所在地 秋田県大仙市協和船岡字善知鳥 14-1
 代表者 代表取締役社長 若泉裕明氏
 設立 1982年(昭和57年)3月1日
 資本金 9,400万円
 従業員数 88名(男子63名、女子25名)
 加工内容 各種表面処理

昭和21年6月 東京都目黒区東町に東電化工業(株)を設立した。

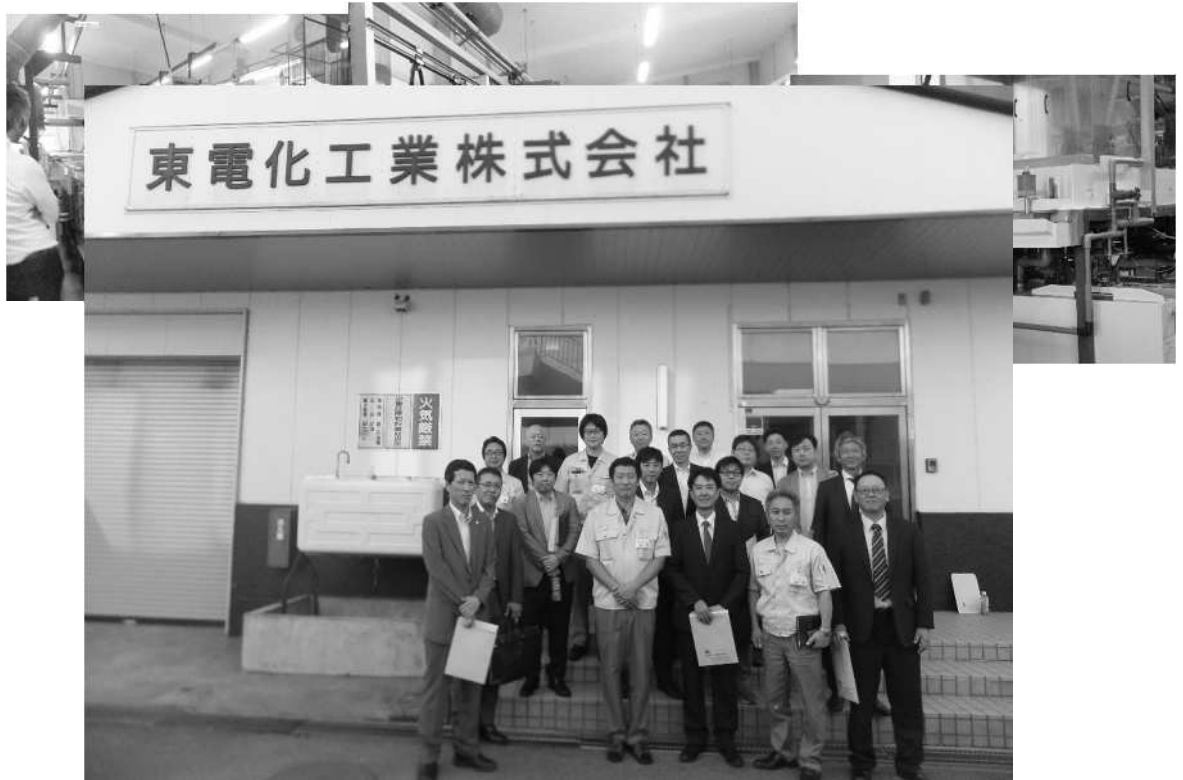
昭和57年3月 東京のめっき会社5社が秋田県誘致で進出した。

東北東協業組合を共同で設立し若泉徳治氏が代表理事に就任。

平成11年6月 社名を東電化工業(株)に変更。

平成23年6月 若泉裕明氏が代表取締役社長に就任。若泉孝治氏は代表取締役会長に。

品質 ISO9001/平成9年12月認証取得、環境 ISO14001/平成17年5月認証取得



翌日は懇親ゴルフを秋田太平山カントリークラブで実施した。

優勝：齋藤祐介氏(資齋藤メッキ工業社、準優勝：千田浩司氏(日本フィルター(株))、

3位：丹野恭行氏(秋田化学工業(株))となりました。

全鍍連・委員会報告

●経営委員会（7月4日）

1. 人材育成事業「先輩経営者との意見交換会」の件

議長の求めにより事務局より次第に基づいて説明が行なわれた。

本年度は、伊藤豪全鍍連元会長（太陽電化工業(株)会長／愛知）を講師として、9月21日に工場見学を含め太陽電化工業(株)にて開催を予定していることを説明した。なお、収容人数の都合上、参加者は各組合一人ずつを基本とし、参加しない組合がある場合には適宜人数を調節する予定である旨を説明した。

2. 女性経営者部会の件

議長の求めにより事務局より、資料1・2頁に基づいて、6月22日（金）に平成30年度女性経営者部会総会の様子を報告した。

・全国より20名の女性経営者が出席し、富士電子工業株式会社代表取締役社長・渡邊弘子様による講演内容などを紹介した。

・総会では役員改選があり、(株)シイヤメッキ（東北・北海道）の椎谷節子氏が幹事を退任され、新しく(株)渡辺鍍金工場の渡辺淑子氏が新幹事に就任したことを報告した。

・部会創設5年を節目として、改めて部会の基本理念、行動指針が制定されたことを報告した（※下記枠内参照）

・本年度研修会では、11月30日に(株)大協製作所様、東新工業(株)の工場見学を予定している旨、報告した。

【女性経営者部会活動理念】

本部会に求められていることは、女性の視点と感性で、これまで男性が守り続けてきた業界の発展に寄与する事です。

数少ない女性経営者、次期経営者、従業員、めっき業界における全ての女性の成長と活躍の必要性に早くから注目して下さった方々の「想い」と「力」でこの会は発足しました。その想いに応え、女性ならではの視点と感性で業界に新しい風を吹き込み、女性が集まり、活躍できる業界づくりを目標としています。

私達一人ひとりが自らを磨き、貢献し、めっき業界を前進させる個としての更なる成長や変革を目指し、活動を行なっていきます。

3. 統計報告について

議長の求めにより事務局より、資料3～6頁、また別紙資料に基づいて、全鍍連景況調査について報告を行った。

平成30年度第1四半期の調査より、従来のFAXによる回答に加え、WEBによる回答方法を追加した。現在回答事業所の3割程度がWEB回答しており、集計効率化の観点から将来的にWEB回答に移行していきたい旨を説明した。また、平成29年度第4四半期より従業員数、ブロック、製造品目別に集計し機関誌に掲載していると報告を行った。

景況感については、全鍍連内で多少落ちたが鉱工業指数としては上昇している。有効求人倍率が全国的に高水準で推移しており、多くの地域で人手不足に陥っている現状を報告した。

4. その他

（1）中小企業等経営強化法に係る固定資産税減税証明業務の終了について

全鍍連にて行っていた、中小企業等経営強化法に係る固定資産税減税の設備証明業務を終了し、新たに（一社）日本表面処理機材工業会が証明業務を行うことになったことを報告した。また、平成30年度に成立した生産性向上特別措置法に伴う設備証明についても、機材工にて証明業務を行なっていることを説明した。

（２）全国めっき技術コンクールの件 《技術委員会》

事務局より資料に基づき、現時点での参加件数について報告を行った。また参加件数増加に伴い、外観審査（8月17日実施予定）の担当委員の負担が懸念されるため、技術委員以外の方からの審査サポートの協力を要請した。

（３）働き方改革施行予定概要について

資料に基づき、清水専務理事より働き方改革に関する施行スケジュールのポイントについて次のとおり説明が行なわれた。

- 2020年4月から中小企業においても、労働時間の上限規制が設けられる見込み（※大企業は1年前倒し）
- 2021年4月から中小企業においても、同一労働同一賃金が適用される見込み（※大企業は1年前倒し）。実際の運用にあたっては、職務内容や待遇などを基にケースバイケースでの運用が予想され、各社にて社内規定を整理する必要がある。
- 2023年4月から中小企業の適用猶予措置が撤廃され、中小企業であっても60時間を超える勤務に対する割増賃金が5割以上となる見込み。
- 実際の社内への適用に関しては、各地の支援センターに確認されるか、今年秋に策定されるガイドラインの活用、また社労士の方などに相談されたい。

（４）事業承継税制の見直しについて

資料に基づき、清水専務理事より中小企業経営者の次世代経営者への引き継ぎを支援する税制措置が創設・拡充され、贈与／相続の対象株式数の上限撤廃や、複数の後継者を対象とできるなど事業承継に係る負担が軽減されたことを説明した。

（５）意見交換

各委員より地域別に景況状況の報告等発表が行われた。概要は次の通りであった。

- ・ 相変わらず人材確保が深刻である。退職理由を聞いても本当のことを言わないので、次に生かすことが難しい。外国人雇用か、AIの導入も検討している。【東京】
- ・ 自治体から助成金が下り、組合内でめっき事業所のカタログを作成したら好評だった。このような業界アピールの仕方もあると感じた。【茨城】
- ・ 組合が財政難に陥っている。どのように組合活動を活性化させるか模索中である【群馬】
- ・ 設備投資等を理由に取引先相手の値上げに踏み切った。先を見据えての先行投資も行なっている旨を説明すると取引先も納得されやすいのではないかと。【埼玉】
- ・ 組合単位で電力の値下げ交渉を行なった。1社ずつよりも組合単位の方が話も通やすく相手にもメリットを感じさせることができるのではないかと。成功したら他の組合にも広めて行きたい。【埼玉】
- ・ 一部事業所において自動車部品会社から厳しい工程監査や工程変更を余儀なくされており、とりわけ設備的に対応が困難な小規模事業所等においては受注停止等に追い込まれるケースも聞いている。【愛知】
- ・ 地元の学校と協力し、地域内でめっき工場の見学ツアーを開催している。実際に就職が決まったケースもあり、このような求人活動をこれから続けて行きたい【長野】

●情報・国際委員会（7月5日）

1. 平成30年度海外視察研修事業の件

議長の求めにより、事務局が平成30年度海外視察研修（アメリカ）について、資料1～3頁に基づき、以下の要領にて視察研修を行なうことを一同確認した。

- （１） 日程 ①平成30年9月12日（水）～9月18日（火）（5泊7日）
- ②平成30年9月12日（水）～9月20日（木）（7泊9日）

- (2) 予算 約50万円~80万
- (3) 人数 32名
- (4) 訪問展示会 International Manufacturing Technology Show 2018

2. 子供霞が関見学デーの件

議長の求めにより、事務局より添付資料4頁に基づき、下記のとおりに説明した。

- ・今年度は8月1日(水)2日(木)経済産業省2階にて開催
- ・昨年同様、東京都鍍金工業組合の協力のもと、オリジナルのキーホルダーを作る体験教室の実施並びにめっき製品の展示を企画

議長から各委員に対し、

- ①各組合関係者に展示品の提供のお願いを周知して頂きたい
 - ②委員以外で当日スタッフとしてサポート頂ける方は事務局まで連絡頂きたい
- 以上、各委員に要請があり、一同これを了承した。

3. 「全鍍連」誌編集計画について

議長の求めにより事務局が資料5頁より「全鍍連」誌編集計画について説明を行なった。今年度の顧問相談役会にて元役員方の執筆してもらったらどうかと言うご意見があった。これを受け、10月以降に新しくスペースを設けることを提案し、一同これを了承した。

4. 全鍍連公式ホームページの件

議長の求めにより、事務局より添付資料6・7頁に基づき、説明を行った。

前回提案したHPへの賛助会員広告掲載案について、全鍍連誌からの広告離れを考慮し、まずは既存の広告掲載企業を対象に月額2万円での募集を検討したい旨事務局より提案があり、一同協議したところ了承した。掲載費については、まずはこの金額でスタートし様子を見ることとなった。

5. 日韓定期会議の件

今年は10月22日(月)に、プリンスタワー東京にて開催を予定していることを説明した。

今後先方と事務局とで会議詳細を詰め、三役等関係者へ報告することを確認した。

6. ドイツハノーバメッセ出展の件

議長の求めにより、事務局が資料8・9頁に基づき説明を行なった。

前回話題に上ったドイツハノーバメッセについて、正式に出展することが決定した。全鍍連誌5月号にて募集を開始し、現在7社出展企業が決定しており、7月24日に委託業者のNCネットワークから説明会が開催される旨を説明した。また、残りの3社については賛助会員を対象に募集を行うこととなった。

7. その他

- (1) 中小企業等経営強化法に係る固定資産税減税証明業務の終了について

全鍍連にて行っていた、中小企業等経営強化法に係る固定資産税減税の設備証明業務を終了し、新たに(一社)日本表面処理機材工業会が証明業務を行うこととなったことを報告した。また、平成30年度に成立した生産性向上特別措置法に伴う設備証明についても、機材工にて証明業務を行なっていることを説明した。

- (2) 全国めっき技術コンクールの件《技術委員会》

事務局より資料に基づき、現時点での参加件数について報告を行った。また参加件数増加に伴い、外観審査(8月17日実施予定)の担当委員の負担が懸念されるため、技術委員以外の方からの審査サポートの協力を要請した。

- (3) 働き方改革施行予定概要について

資料に基づき、清水専務理事より働き方改革に関する施行スケジュールのポイントについて

て次のとおり説明が行なわれた。

- 2020年4月から中小企業においても、労働時間の上限規制が設けられる見込み（※大企業は1年前倒し）
- 2021年4月から中小企業においても、同一労働同一賃金が適用される見込み（※大企業は1年前倒し）。実際の運用にあたっては、職務内容や待遇などを基にケースバイケースでの運用が予想され、各社にて社内規定を整理する必要がある。
- 2023年4月から中小企業の適用猶予措置が撤廃され、中小企業であっても60時間を超える勤務に対する割増賃金が5割以上となる見込み。
- 実際の社内への適用に関しては、各地の支援センターに確認されるか、今年秋に策定されるガイドラインの活用、また社労士の方などに相談されたい。

（4）事業承継税制の見直しについて

資料に基づき、清水専務理事より中小企業経営者の次世代経営者への引き継ぎを支援する税制措置が創設・拡充され、贈与／相続の対象株式数の上限撤廃や、複数の後継者を対象とできるなど事業承継に係る負担が軽減されたことを説明した。

（5）情報交換

各委員より地域別に景況状況等の報告・発表が行われた。概要は次の通り。

- ・仕事はあっても人材確保ができず仕事を逃してしまうケースがある。
- ・めっきの注文種類が多様化する中で、自社では難しいめっきを他社にアウトソーシングし、新しい設備の導入などをしなくてもよい関係をつくっている。
- ・海外からの人材をアジアからではなくヨーロッパからも受け入れている。特にドイツ人は日本人と気質が似ていると言われているので今後も継続していきたい。
- ・中国の排水規制が厳しくなっており、今まで中国で行なっていためっきの注文が日本にきている。

●環境委員会（7月6日）

1. 平成30年度春期排水濃度調査集計結果の件

議長の求めにより、事務局より資料に基づき、ほう素、ふっ素、亜鉛等に係る本年度の春期排水濃度集計結果について報告が行われた。議長より次のとおり、意見が述べられた。

- 東京においては超過事業所が比較的多いが、今回都立産業技術センターの有識者とともに巡回指導を行い、一定の削減効果が見られた企業も見受けられる。
- しかしながら技術的な解決が困難な状況が続いており、一律基準超過事業所は依然横ばい傾向のままである。
- ほう素・ふっ素の暫定排水濃度の適用期限については来年6月末であり、前回環境委員会にて皆様より了承を得たとおり、今回は現状維持の数値で暫定基準の延長を要望したいと考えている。
- ただし前回要望時に国に対し、ほう素20mg/L、ふっ素30mg/Lを目標値として標榜しており、指摘を受ける可能性がある。検討委員会では武田技術顧問より、皆さまの数値結果や削減努力などを基に我々の現状を主張する予定であるが、現状維持が認められない場合は着地点としてそれぞれ5mg/L下げる可能性があることを、予めご了承いただければと考えている。

以上のとおり、ほう素（30mg/L⇒30mg/L）、ふっ素（40mg/L⇒40mg/L※50立米未満）について暫定基準値を据え置いたまま、国に対し暫定適用期間の3年間延長（平成31年7月1日～平成34年6月30日）を要望することを一同確認した。

なおその他意見として、「亜鉛の規制については水生生物保全という観点から数値目標が

設定されているが、一律基準値の2がそもそも科学的・合理的なものなのか、検証できる機会があれば是非お願いしたい」との意見が挙げられた。

2. 揮発性有機化合物（VOC）に関する調査の件

3. 議長の求めにより、事務局より資料に基づき、自主的な排出抑制を行なっている揮発性有機化合物（VOC）に係る使用実態調査を、使用実績のある事業所を対象に行うことを説明した。議長は、VOC使用事業所におかれては、作業者の使用環境に配慮しつつ、引き続き排出量規制目標に近づけるよう協力をお願いしたいと述べた。

4. 平成30年度環境整備優良事業所表彰並びに認定制度

議長の求めにより、事務局より資料に基づき、環境整備優良事業所表彰制度・認定制度概要について説明を行った。今年も例年同様に8月頃実施案内を各組合に対し通知するので、優良事業所の推薦を各委員に呼び掛けた。

5. 改正土壤汚染対策法の件

議長の求めにより、土壤汚染対策法改正の動きについて、資料に基づいて清水専務より次のような説明が行われた。

- 操業中や一時調査を免除中の土地の改変をした際に発生する調査義務について、3000平米から900平米へ条件が引き下げられる動きであり、今後規則が改正され、平成31年4月に施行される見込み。

- 各自治体においては、関連条例も玉突きで変更される予定がある。また一部自治体においては上乘せですでに運用されている地域もあり、今後各自治体にて開催される説明会等を通じて、各地の運用の実態を把握されるようお願いしたい。

6. その他

（1）中小企業等経営強化法に係る固定資産税減税証明業務の終了について

全館連にて行っていた、中小企業等経営強化法に係る固定資産税減税の設備証明業務を終了し、新たに（一社）日本表面処理機材工業会が証明業務を行うことになったことを報告した。また、平成30年度に成立した生産性向上特別措置法に伴う設備証明についても、機材工にて証明業務を行なっていることを説明した。

（2）全国めっき技術コンクールの件 《技術委員会》

事務局より資料に基づき、現時点での参加件数について報告を行った。また参加件数増加に伴い、外観審査（8月17日実施予定）の担当委員の負担が懸念されるため、技術委員以外の方からの審査サポートの協力を要請した。

（3）働き方改革施行予定概要について

資料に基づき、清水専務理事より働き方改革に関する施行スケジュールのポイントについて次のとおり説明が行われた。

- 2020年4月から中小企業においても、労働時間の上限規制が設けられる見込み（※大企業は1年前倒し）

- 2021年4月から中小企業においても、同一労働同一賃金が適用される見込み（※大企業は1年前倒し）。実際の運用にあたっては、職務内容や待遇などを基にケースバイケースでの運用が予想され、各社にて社内規定を整理する必要がある。

- 2023年4月から中小企業の適用猶予措置が撤廃され、中小企業であっても60時間を超える勤務に対する割増賃金が5割以上となる見込み。

- 実際の社内への適用に関しては、各地の支援センターに確認されるか、今年秋に策定されるガイドラインの活用、また社労士の方などに相談されたい。

（4）事業承継税制の見直しについて

資料に基づき、清水専務理事より中小企業経営者の次世代経営者への引き続きを支援する

税制措置が創設・拡充され、贈与／相続の対象株式数の上限撤廃や、複数の後継者を対象とできるなど事業承継に係る負担が軽減されたことを説明した。

(5) 各委員による景況等自由発表

- 景況感に関して、それほど悪くないものの、以前より少し落ちてきた
- 自動車比較的好調であるが、横ばい状態。
- 依然として人材不足が継続しており、ベトナム人インドネシア人など、外国人労働者の雇用を進めている。またロボットの導入も視野に入れている。
- 特定施設の変更に伴い、対応に追われた事業者があるが、自治体の担当官とのコミュニケーションはきちんと行なうことが重要だと感じる。

●技術委員会 (8月17日)

1. 平成 30 年度委員会事業の件 議長の求めにより、事務局より次第 1 頁に基づき平成 30 年度技術委員会事業計画・予算 について説明し、出席委員全員がこれを確認した。
2. 東京都「競技大会等促進支援事業奨励金」の件 議長の求めにより、事務局より東京都「競技大会等促進支援事業奨励金」について、昨年度に引き続き東京都より奨励金 543,000 円の支給が決定した旨、報告を行った。
3. 平成 30 年度全国めっき技術コンクール外観審査開催の件 議長の求めにより、事務局より本委員会終了後、通常通り平成 30 年度全国めっき技術 コンクール第 1 回審査委員会 (外観審査) を開催する旨説明し、出席委員全員これを確認した。

以上、すべての審議が終了したので議長が閉会を告げ会議を終了した。

(この後、平成 30 年度全国めっき技術コンクール第 1 回審査委員会を開催した)

予 定

期 日	場 所	内 容
10月9日(火)	機会振興会館	全鍍連 経営三役会
10月11日(木)	機械振興会館	全鍍連 環境三役会
10月16日(火)	機械振興会館	全鍍連 総務三役会、委員会
10月22日(月)	プリンスパークタワー東京	全鍍連 情報・国際三役会
10月22日(月)	プリンスパークタワー東京	第32回 日韓定期会議

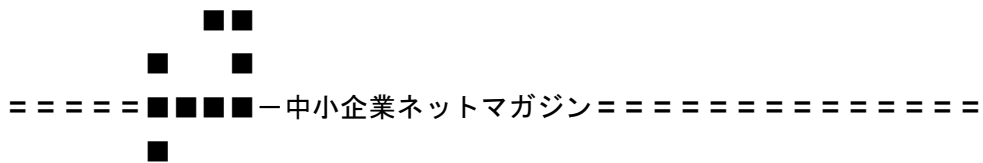
10月12日(金)	T S T I A事務局	北青会 役員会
10月23日(火)	機械振興会館	全鍍連 技術三役会 全鍍連 めっき技術コンクール総合審査委員会
11月8日(木) ↓ 11月9日(金)	埼玉県	T S T I A 優良企業視察研修会
11月16日(金)		北青会 懇親ゴルフ、忘年会
11月21日(水)	ホテルニューオータニ	全鍍連 常任理事会、理事会 70周年記念式典 第56回全国大会
12月4日(水)	仙台市：東洋館	T S T I A ゴルフ・役員会・忘年会

連絡事項

◆お知らせ

- ・ 賛助会員：有限会社 東北ユニラック
7月31日 事業譲渡により会社を清算しました。
譲渡先は有限会社ティ・アイ・エフ（福島市渡利字岩崎町）
- ・ 会員：株式会社 旭電化
代表取締役社長 宍戸隆司氏の母 宍戸テル氏に於かれましては7月31日ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
- ・ 賛助会員：有限会社 安孫子鍍研資材店
9月1日 代表取締役に佐藤 彰氏が就任いたしました。
前代表取締役の安孫子惣一氏は取締役会長に就任いたしました。

インフォメーション



■■■ 編集&発行 = e - 中小企業庁&ネットワーク推進協議会
http://www.chusho.meti.go.jp/e_chusho/index.html

中小企業庁 / 中小企業基盤整備機構

□————— Vol. 844/2018. 09. 26 —————□

◆「平成 30 年 7 月豪雨」に係る被災中小企業等支援策情報はこちら。

<<http://www.chusho.meti.go.jp/201807gouu/index.html>>

□—————□

<今週のインデックス>

<http://e-net.smrj.go.jp/archives/9606>

□—————□

★巻頭コラム★

～独自の集音技術で未開拓市場に挑む～

◆精密機械の出荷前検査で、完成品から生じるわずかなきしみ音を拾い出す異音検査用の集音技術や水道管漏水検査技術など、音を聞き分ける画期的な製品を開発する中小企業が、町工場の集積地として知られる東京都大田区にある。

続きは、こちらから

<http://e-net.smrj.go.jp/archives/9608>



★補助金等公募状況のお知らせ★

◆補助事業の公募状況一覧表を掲載しています

<http://e-net.smrj.go.jp/archives/9610>



◆中小企業庁が行う入札・調達に関する最新情報を掲載しています

<http://e-net.smrj.go.jp/archives/9612>



★こんにちは！ 中小企業庁です★

《災害対策》平成30年7月豪雨「中小企業組合等共同施設等災害復旧費補助金（商店街復旧事業）」の広島県内の公募を10月2日から開始します

<http://e-net.smrj.go.jp/archives/9614>



《適正取引》11月は「下請取引適正化推進月間」です！～見直そう働き方と適正価格～

<http://e-net.smrj.go.jp/archives/9616>



《金融支援》セーフティネット保証5号の対象業種を指定します（平成30年度第3四半期分）

<http://e-net.smrj.go.jp/archives/9618>



☆☆☆今までの主なニュース☆☆☆

今までに出された支援策等

<http://e-net.smrj.go.jp/archives/9624>



★ミラサポ情報★

◆企業間のデータ連携で、業務を効率化する「中小企業共通EDI」を紹介します！

「読んでトクする！ミラサポ総研 Vol. 70」公開

<http://e-net.smrj.go.jp/archives/9626>



★海外展開ニューズレター★

《募集情報》「中華圏KOLおよび越境ECを活用したテストマーケティング支援事業」の参加企業を募集します

<http://e-net.smrj.go.jp/archives/9629>



《セミナー》「ベトナム経済投資セミナー～千葉県ベトナム経済ミッション関連事業～」を開催します

<http://e-net.smrj.go.jp/archives/9632>



《募集情報》「ルーマニア投資環境視察ミッション」の参加者を募集します

<http://e-net.smrj.go.jp/archives/9634>



★今週のトピックス★

◆◆◆全国◆◆◆

《募集情報》「価格交渉サポートセミナー」を開催します

《セミナー》『業務効率化と会社の戦力アップのための』障がい者雇用とは？』を開催します

<http://e-net.smrj.go.jp/archives/9664>



★支援機関ニュース★

◆中小企業ビジネス支援サイト【J-Net21】

<http://e-net.smrj.go.jp/archives/9588>

◆中小機構イベントカレンダー

<http://e-net.smrj.go.jp/archives/9666>

◆中小企業関係機関リンク集

<http://e-net.smrj.go.jp/archives/9668>



★編集後記★

中小企業政策の変遷をひもとくと、3つの非常に重要な年を挙げることができます。

続きは、こちらから

<http://e-net.smrj.go.jp/archives/9670>



【 編 集 後 記 】

東北北海道ブロック会議も今年で49回目となりました。仙台市内での開催は初めてのことでした。50名を超えての参加となり久々に多くの方々に来ていただきました。来年は山形県での開催となります。多くの方にご参加いただきたいと思います。11月には優良企業視察研修会を埼玉県の吉野電化工業(株)様、日本電鍍工業(株)様の2社をご訪問いたします。毎年のごことはいえ次はどの企業にするかと理事の方々には悩みです。視察したい企業はあるものの相手あつてのことなのでこちらが見たくとも相手から断られることもあります。次はどこかと期待されているかも知れませんが大変な思いで企業選定をいたしております。お察しいただければと思います。1月には恒例の新春賀詞交歓会が1月23日(水)に開催をいたします。お忙しいとは存じますが、多くの方々にご出席賜りますよう宜しくお願い致します。これから秋めいて寒くなってきますが元気で行事に参加いただきますよう宜しくお願い致します。

東北・北海道表面処理工業組合 事務局

〒983-0852

仙台市宮城野区榴岡3丁目11-5 A-106

TEL 022(792)2332/FAX 022(792)2333

e-mail:tstia@nifty.com

★新聞・雑誌の切抜き★

| 2018年（平成30年）7月12日・木曜日

姫路鍍金工業所



2016年に設立したフィリピン工場

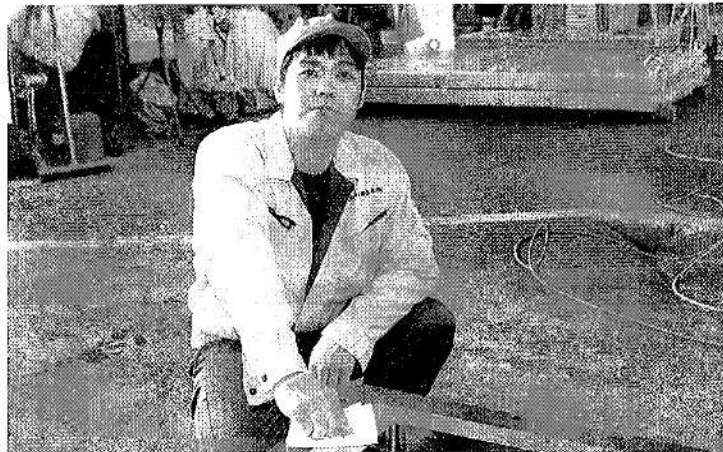
姫路鍍金工業所は創業102年を迎える老舗のメッキ加工業。自動車用部品の亜鉛メッキや特殊車両に使用される部品の硬化メッキなど、さまざまなメッキ加工を得意とする。品質管理や納期だけでなく、アフターフォローにも力を入れており、顧客からの信頼度も高い。

技術開発や顧客開拓にも熱心で、古江裕人社長自らが国内や海外の現場に出向き、情報を収集に取り組む。その

成果として、2011年8月に、初の海外拠点となるベトナム工場を設立した。

16年3月にはフィリピンにも工場を設立。自動車用電装部品向けのカチオン電着塗装をメインに行っている。現地では日本品質に合った同塗装ができる企業が少ないと情報を得たことが進出の決め手となった。今後は亜鉛バレルメッキにも対応するなど、顧客ニーズを探索していく。

2018年（平成30年）7月12日・木曜日



マルイ鍍金工業

製造部電解研磨班
リーダー

宮本 健嗣 さん(37)

入社して、ステンレス製真空容器などの電解研磨をやってきた。2012年から3年間、中国の現地法人に出向。中国工場の立ち上げに尽力した。当時、反日問題が起こっていたが、現地の人たちと協力して取り組めたから軌道に乗せられたと実感している。現地では語学学校にも通い、通訳なしでやりとりができるまでになった。

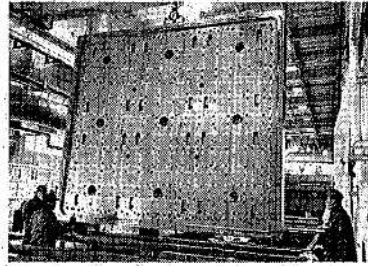
今後、他国に進出する計画が出れば「また立ち上げから頑張ってみたい」。顧客ニーズを満たすため、技術を売る会社なので自身の技術レベルアップにも力を入れている。

2018年（平成30年）8月28日・火曜日

多様なメッキ
技術をPR

仁科工業

仁科工業（さいたま市中央区、048・831・5238）は、



無電解ニッケルメッキの多様な技術をアピールする。超大型無電解

紙上レビュー

加工技術展2018
先進加工プロセス展2018
表面改質展2018

ニッケルメッキ設備などを使用、ミリメートル単位の小型から4メートルを超える大型の金属製

品まで、試作、単品、量産と幅広く対応する（写真）。耐摩耗性や耐食性、離形性などを向上した複合無電解ニッケルメッキも注目だ。

9月11日・火曜日 2018年（平成30年）

吉野電化が子会社化

石川の吉田メッキを承継

事業承継

【さいたま】吉野電化工業（埼玉県越谷市、吉野寛治社長、048・951・1111）は、亜鉛メッキなどを手がける吉田メッキ工業（石川県小松市）を100%子会社化した。国内の生産拠点が埼玉県のみの吉野電化は、中部・関西地方への営業を強化するほか、事業継続計画（BCP）対応にも役立てる。子会社化を踏まえて設備投資を積極化し、吉田メッキの売上高を5年以内に現行比2倍に引き上げる考え。

中部・関西向け拠点に



子会社化は吉田メッキの事業承継が主目的で、金融機関の後押しがあった。吉野電化の吉野正洋専務が吉田メッキの社長に、吉田メッキの吉田敏夫前社長は会長に就任した。社名、約15人の従業員の雇用は維持する。

2019年度中に、吉田メッキの亜鉛メッキの設備更新などに1億円を投じる。この5年間で計3億円の設備投資を行う計画で、5年後に生産能力を倍増する考え。品質マネジメントシステム（QMS）を導入し、品質の要求に対応することで事業の拡大を図る。吉田メッキは1950年の創業。亜鉛メッキやパレルメッキを手がけ、大手の建設機械メーカーなどからの信頼も厚い。自己資本比率が高く財務内容も良好だ。吉野電化は硬質クロムメッキが主力。自動車向けが約6割を占める。18年5月期の売上高は約40億円。12年に社外展開も順調。航空機分野の部品加工など業容を広げている。

2018年(平成30年) 8月30日・木曜日

プラ表面酸化

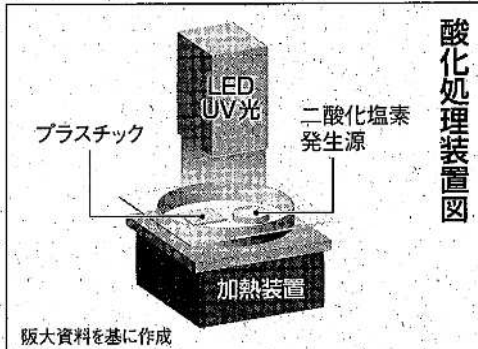
金属と接着

大阪大学大学院工学研究科の浅原時泰特任准教授と麻生隆彬准教授、宇山浩教授らは、プラスチックの表面を酸化させて金属と接着する技術を開発した。常温常圧で二酸化塩素により表面を酸化させると、疎水性が軽減して金属との親和性が向上する。さまざまな種類の樹脂に適用でき、汎用性が高い。クロム酸を使わない環境負荷が低いプラスチックへ

阪大が技術開発

のメッキや、レトルト食品などのパウチ袋などに応用できる。研究グループは、二酸化塩素でメタンを酸化させて変換率99%でメタノールを得る技術を応用した。加熱装置上の容器にプラスチックと二酸化塩素の発生源を入れてふたをし、紫外線を当てる。光によって二酸化塩素分子の構造が変わり、反応性が高まりスムーズにプラスチック表面が酸

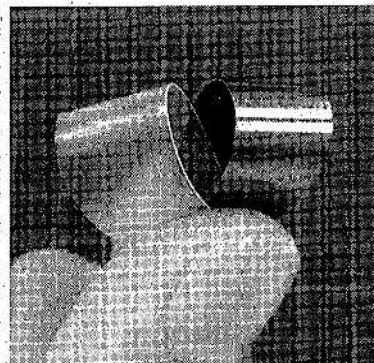
化する。安全で低コスト、ポリ乳酸など多トの処理ができる。様々な樹脂に対応する。ポリエチレンやポリプロ、同手法でプラスチック、ピレン、ポリカーボネク表面を酸化すると、



酸化処理装置図

メッキなどに応用期待

メッキがはがれにくくなる。従来、プラスチックへのメッキをはがれにくくするには、硫酸の混合液で表面を粗くするエッチング工



程が必要で、環境負荷められる自動車部品や電子機器のフレキシブル基板、建材や家電のデザイン性向上など広い分野で応用が期待できる。今後、広い面積での処理や用途に応じた長期間の耐久性確保などに取り組み、実用化を図る。

メッキがはがれにくくメッシュなど複雑な構造にも応用できる

今回の接着技術は、軽量化が求

2018年（平成30年）9月14日・金曜日

わが社のCSR戦略

九州電化副社長 山田 佳代子氏

メッキ加工の九州電化（福岡市東区、山田登三雄社長、092・611・3461）。山田佳代子副社長は、NPO法人「がんのママをささえ隊ネットワーク ETERNAL BRIDGE」代表という顔も持つ。がんになった、特に若い母親の不安や悩みをやわらげようとの活動に奮闘する。

（西部・関広樹）

—活動の経緯は。

「2016年に医師でもある娘から、がん患者について話を聞き、手伝ってほしいと相談された。自分の経験から病気になった立場、その家族の立場も分かっていた。人の役に立てるならと代表を引き受け、3人で活動を始めた。任意団体でスタートし、その後NP法人化した」

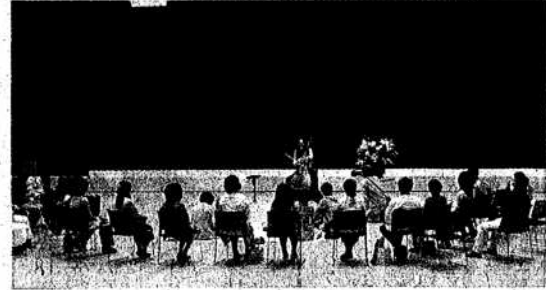
—「がんのママ」を支援することを明確にしています。

「がん患者の会はあるけれども子育て中だからこそその不安や悩みがあり、同じような立場の人がいる。親にも子どもにも病気のことを言えないままという場合もある。まずは同じような思いを持つ人がいることを知ってほしい」

—どのような活動をしていますか。

「語り合う場をつくることが中心。病気の伝え方について勉強したり、みそづくりを体験したり、いろいろなことをしている。音楽会を開くこともある。ネットワークが広がって、子どもの面倒を見たり、活動の会場などで協力してくれる人が増えている」

がんの母親支える



子どもも参加できる音楽会を開くこともある

—会社の協力は。「ウイッグの試着会で、試着ブースをつくることになり、社員が積極的に協力してくれた。思い通りのブースができたのはモノづくり集団がいたから。社長や業界団体の縁で支援してくれる人に出会うこともある」

—今後の抱負を。

「多くの人に活動を知っ

てもらうための冊子を発行したい。会の活動に参加しなくてもできない人もいる。テレビ電話を使うなどして参加できないか考えている。患者さんの夫による『お父ちゃん会』も始めていて、その活動も活発にしたい。将来は患者さんの子どもへの思いを、子どもの成長に応じて渡せる仕組みもつくりたい」

9月25日・火曜日 2018年（平成30年）

不撓不屈

アルプス望む町

塚田理研工業は、プラスチック（樹脂）への美観および機能メッキを手がける。長野県南部の天竜川に沿った伊那盆地のほぼ中央にある駒ヶ根市に立地。東側に南アルプス、西側には中央アルプスと日本を代表する二つの山脈が南北に走る豊かな自然に恵まれた風光明媚な土地柄だ。こうした背景もあってか、同社は創業以来一貫して「環境にやさしいメッキ処理」を重

塚田理研工業

①

樹脂メッキのバイオニア

要なテーマに掲げる。

同社の前身は、塚田理化学研究所といい、旧帝国陸軍疎開工場の技術者だった塚田藤一が設立した会社だ。この頃、塚田は樹脂メッキの量産化に成功。これに着目したのが、現社長である下島康保の父親で、当時は地元で材木商を営んでいた。この出会いがきっかけとなり、1963年に樹脂メッキ専門工場の塚田理研工業が誕生した。

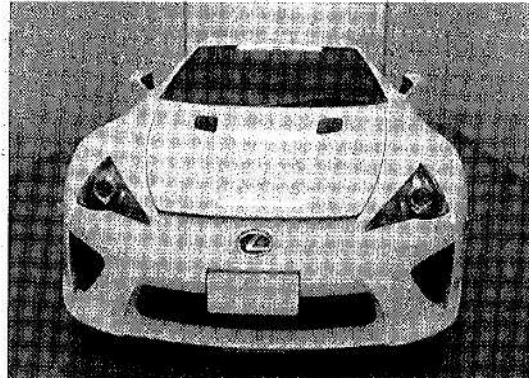
全自動の新工場

塚田は健康上の理由か

ら程なく一線を退き、後の事業展開は、まだ30歳前後と若い下島に委ねられた。そして試行錯誤を繰り返しながら、3年後には樹脂メッキの量産化に成功。婦人服ボタン用メッキなどの仕事を、塚田が試験レベルで入り始め、手応えをつかみつつあった下島だったが、「事業計画を持ち込んでも、主要銀行には相

「環境」掲げ非常識に挑戦

手にされず設備資金の調達には苦労した」と当時を振り返る。それでも、下島の熱意を買い融資に応じる金融機関が現れ、73年には総工費約1億円を投じて全自動メッキ装置を備えた



自社のメッキ技術が使われている高級スポーツカーをデモ用に購入

新工場を完結させてみせる」という意図が込められた。最高業績を更新

創業以来、一貫して「環境」を掲げ、非常識に挑戦する

取組んで、カメラ、アミューズメント機器向けなど幅広い。トヨタ自動車向けでは、自社のメッキが使われている3000万円台後半の限定

版高級スポーツカーを、見込み客へのデモ用に購入するなど営業手法も大胆だ。

リーマン・ショック後、売上が約半分に落ち込む憂き目を見たが、以降の業績は順調に回復。直近の18年5月期は、過去最高を大きく超える92億円の売上高をたたき出した。

（敬称略）

▽所在地 長野県駒ヶ根市赤穂16397の5、0265・82・3256
▽社長 下島康保氏
従業員 192人
▽資本金 3750万円
▽売上高 92億円（18年5月期）
▽URL www.t-sukada-riken.co.jp/

不撓不屈

ふとうふくつ

「リーマン」転機

塚田理研工業（長野県駒ヶ根市）が創業以来進めてきた、樹脂基材へのメッキ技術を徹底して追究する姿勢は一貫して変わらない。だが時代は終始変化を遂げ、巻き込まれる者に改革を促す。塚田理研工業にとっては、他の多くの製造事業者と同じく、リーマン・ショックが一つのターニングポイントだった。「それ

塚田理研工業

②

中国進出を決断

まであったメインの顧客 冷静な判断に基づいて工場がほとんど海外に移った。そして、「石橋をた転していった」。当時のたいて渡らなかつた「下危機感を社長の下島康保 島が、ついに中国進出を思い起こす。決断する時がやってくる。

もともと下島は、1983年ごろから海外への工場進出をにらんで、中国各地に多数回赴き、工場立地の可能性を探ってきた。当時、大手オートモービルメーカーから進出の催促もあつたためだ。だが、下島はその時点では話に乗らなかつた。「オート

苦勞の3年

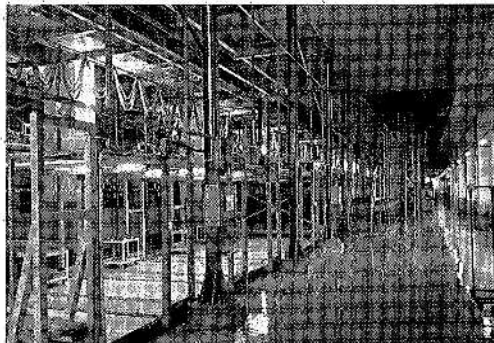
イオメーカーから進出の催促もあつたためだ。だが、下島はその時点では話に乗らなかつた。「オートモービルメーカーから進出の催促もあつたためだ。だが、下島はその時点では話に乗らなかつた。」

車向け狙い5年で軌道に

「オートモービル向けでは向こう3〜4年で投資の回収が見込めない」という

魅力だった」と、下島は現地法人は塚田理研工業り、日本と同じ全自動の9割、残りの1割を取メッキラインを持ち込5倍程度となる見込みだ。

（敬称略）



中国工場に導入した全自動メッキライン

資する形をとった。だが、今では日本メーカーに加え、欧州自動車向けの内装樹脂材向けに現地での取引社数は60社を超え、同現法単体で17年12月期の売り上げは29億4100万円にまで成長した。

このほど3階部分を新たに借り上げ、およそ5億円を投じて自動メッキラインを増設した。既存の1ラインが量産主体なのに対して、新ラインでは、多様な処理形態に対応できるよう、人手を交えた機動的な生産体制を予定。フル稼働時に生産能力は従来比で約1.5倍

生産能力1.5倍 設立時には、4階建ての借り工場のうち、3階部分を除く3フロアを借入居を決めた。

不撓不屈

ふとうふくつ

金属類を回収

「当社のメッキ工場はスリッパで歩ける板敷きが特徴」と、塚田理研工業（長野県駒ヶ根市）社長の下島康保は説明する。空調にもオリジナルアイデアを交えた大がかりな換気や空調システムを採用するなど、従業員が働きやすい職場環境に細心の注意を配る。その上で、メッキ処理工場がもたらす環境負荷をでき

塚田理研工業

③

環境保護へのこだわり

るだけ小さくするためし、工場に戻して再利用に、これまでさまざまな設備を導入してきた。中でも際立つのが、メッキ処理排水から金属類などをリサイクルするため、11年ほど前に新設した「排水リサイクルセンタ

ー」だ。同社では、設立間もないころからイオン交換式総合排水処理施設を導入、更新してきた。一方、排水リサイクルセン

ターは、排液に含まれる金、ニッケル、銅などを回収リサイクルすると同時に、排水を純水に精製



排水からリサイクル回収したニッケル 交換することで、「温室効果ガスの排出を減らせる」（下島）と、その効果を強調する。このほか同社では、400キロワットの自家発電装置8台を保有。併せて2台は、かねてより競業者との絆 設立6年で軌道に乗りつつある中国子会社も、成功のモデルケースとして同業者からの人気は高い。中国への進出を検討するメッキメーカーから（敬称略）

排水を徹底的にリサイクル

減への貢献も視野に入れ、8年前には、およそ1億7000万円を投じて敷地内に液化天然ガス

（敬称略）

不撓不屈

ふとうふくつ

創設56期目を迎えた塚田理研工業(長野県駒ヶ根市)。社長の下島康保は若年で創業メンバーに加わり、走り続けてきた。「なんとか生き延びてこられた」と自社の足跡をやゆもする下島だが、その歩みが弱まる気配はない。

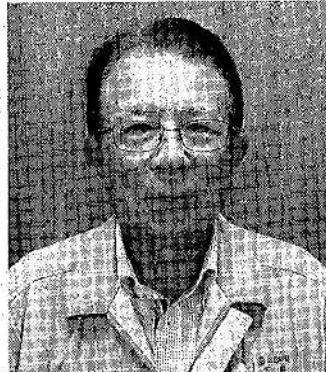
塚田理研工業

④

積極営業で新たな需要

をかける。社員には「アに、新たな需要を上手にテナを高く積極的な営業活動」を呼びかけてお見本市に出展するなど積極策を貫く。この際に有効なのが、婦人ポタンの慣習を参考に、40年ほど前から配布を始めたオリジナルメッキ色のサンプル帳。風雪の時を経て今や「工業デザイナーの間では、同サンプル帳の色が樹脂メッキでスタンダードの位置づけになつて

他社がやらない仕事を追求



面倒で他社が嫌がる仕事、短納期、小ロットを取れ...と号令をかける下島社長

遅れそう」(同)だが、2019年7月での本格稼働を見込む。このほか得意とする部分メッキ処理や部分塗装、イオンプレーティングなど複雑な処理もさらに増強する。18年5月期に売上高92億円で過去最高を達成したが、19年5月期には同105億円前後を見込む。さらに、下島の目は海外の未開拓エリアにも向く。インドやロシアにも

の基板向けメッキは難しいものしか残っていない(下島)という需要を拾い集めて同メッキ設備の増設を行ってきた。

現在、売上高構成比で4割程度を占めるまでに拡大した自動車向け樹脂部品へのメッキ用途も増え、目下のとえ(同)と予測。慎重ながらも大胆に模索する。(敬称略)

「面倒で他社が嫌がる仕事、短納期、小ロットを取れ」と大号令

サンプル帳

「面倒で他社が嫌がる仕事、短納期、小ロットを取れ」と大号令

現在、本社工場は無電